

33) PMD病棟の生活介助における ボディメカニクスについて

国立療養所刀根山病院

大久保 一枝 小谷 和子
芦沢 昭代 森 永しのぶ

前年度の、体位変換、更衣、患者移乗、装具着用者の立位介助に引き続き、今回は、毎日欠かす事のできない排便介助について、ボディメカニクスからみた介助姿勢、介助動作について検討し工夫したので、その結果を8ミリ映画によって報告する。

1. ベッド上での排便介助。
 - 1) ゴム便器を使用する場合。
 - 2) 差し込み便器を使用する場合。
2. 便器車を使用するの排便介助。
3. 便所での排便介助。
 - 1) 装具着用者の場合。
 - 2) 装具と車椅子併用者の場合。
 - 3) 車椅子から腰掛便器に1人で介助する場合。
 - 4) 車椅子から体重の重い患者を2人で腰掛便器に移す場合。

ベッド上でゴム便器または差し込み便器を挿入して介助する場合、ベッドサイドに立ったまま腰高でつり上げると、腰部に負担がかかり不安定な動作になるので、介助者がベッドに片膝を上げて患者に接近し、患者を一度側臥位にした後、便器を適切な位置に固定しその上に体位変換を利用して行うと患者も介助者も負担が軽く容易である。

便器車を使用する場合、介助者は、中腰のまま患者をベッドから抱き上げて腰部を捻転させ無理することがある。便器車の手すりをはづし、患者を手前に引き寄せてから坐位をとらせ、水平移動で便器車に移す。便器車からベッドに移すときも、介助者が患者に密接した状態でベッドに移し、両方が安定してから臥位にする。

便所で装具着用者を腰掛便器に介助する場合、介助者と患者とが向い合った状態では、患者の重心にひっぱられて無理な力がかかり不安定な介助姿勢になる。良い方法として介助者は、腰を低くして後から患者に密着した状態で膝の屈伸を利用して坐らせ、また立たせる。

装具と車椅子併用者は、患者の体重に装具の重さが加わり、1人で介助することは危険である。複数で介助し、1人は背後から患者の両脇に手をまわして持ち、1人は装具着用のほぼ膝の辺を持ち、呼吸を合せて移乗させる。

車椅子から介助者1人で体重の軽い患者を腰掛便器に移す場合、不用意に抱きかかえ、腰部を捻転させて介助しがちであるが、1度ベッドに移してズボンをずらせ、体勢を整えてから便器に坐らせる。

体重の重い患者を2人で腰掛便器に介助する場合は、車椅子の足台を立て、車椅子と便器をできるだけ密接させ、介助者は患者の両側に密着して、脇と大腿下部を持って支え、呼吸を合せてタイミングより移乗させると患者も不安や苦痛がなく、介助者の負担も少ない。

排便介助は、ベッド上でも、便所でもいづれの場合にしても介助者にかかなりの負担がかかる。衣服の着脱、移乗、坐位姿勢の安定保持、安楽な方法と介助内容も多い。一人一人の患者に適した方法を考慮すると共に、介助動作に細心の注意を払い、より安全な方法を工夫しながら行うべきだと考える。

また今後の問題として、より負担の少ない方法を検討すると共に、ベッドや車椅子、トイレの構造などにも改善が必要であることを痛感している。

3A) 抑制帯の工夫

国立療養所刀根山病院

大久保 一枝 兼子 文代
栗林 真理子 谷 昭子
玉置 公子

筋力低下、変形の進行に伴ない体位の固定・保持が困難になる筋ジス患者にとって、抑制帯は不可欠なものであり、体位の固定という使用目的のみならず、転倒転落の予防等、安全を守る意味でも、また変形予防矯正のためにも重要なものである。

しかし実際に患者に使用する場合には、抑制帯という名前からも受けるように、抑圧感、圧迫感などを与えがちである。そこで、それらをできる限り取り除き、その使用目的に適合するよう配慮し、考案してみた。

具体的には、車椅子上での上半身・下肢の固定、ベッド上での坐位保持、排便時の体位固定等に必要なものを工夫した。

まず車椅子上での上半身の固定の目的では、最初布製で幅10cmのひも状のもので前胸部を支え、車椅子の後方でしばっていた。結果、胸部の一部分に圧迫が加わりすぎるという欠点があった。

次に、比較的胸部広範囲に当たる胸当てに4本のひもを縫いつけた形のものを作ったが、これも圧迫感や疼痛があった。

そこで、下志津病院考案の抑制帯を参考にしたが、安定性が悪く患者は不安感を訴えた。次に、胸当ての上下にはスポンジを入れ、まん中には何も入れないものを作った。結果は、やはりまん中がしわになり上下に縮んでしまい、またスポンジはむし暑く、湿気がこもるという欠点があった。

そこで、スポンジ部分を原綿に変え胸立て全体に入れると、圧迫感はなく使い心地もよくなった。尚、抑制帯を車椅子に固定する際には、ひもを後のハンドルに一回巻きつけてからしばると、ゆる

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

前年度の、体位変換、更衣、患者移乗、装具着用者の立位介助に引続き、今回は、毎日欠かす事のできない排便介助について、ボディメカニクスからみた介助姿勢、介助動作について検討し工夫したので、その結果を8ミリ映画によって報告する。